

普及活動情勢報告（令和5年6月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

栽培終了時の「出さない」対策を徹底しましょう！ ～促成キュウリキルパー処理実証～



啓発資料
(キルパー処理マニュアル)

5月23日～6月9日の間に、須崎市の促成キュウリ農家ほ場で、JA土佐くろしおと連携し、栽培終了時の防除対策としてキルパー処理の実証を行いました。

当課は、処理期間中のハウス内の温度変化や黄化えそ病を媒介するミナミキイロアザミウマのハウス内外での頭数の推移を調査しました。

実証農家からは「次作のためにもしっかりと終了時の防除と蒸し込みをしたい」との声が聞かれました。

今後は、今回の調査結果を参考に昨年度作成した啓発資料「キルパー処理マニュアル」をバージョンアップして、栽培終了時の防除対策について巡回指導等を行い、次作の黄化えそ病対策を周知していきます。

現地の声を普及活動に ～第1回農業改良普及推進協議会～



普及指導計画書の内容を聞く参加者ら

5月25日、須崎総合庁舎で農家代表や関係機関14人の参加により須崎農業改良普及推進協議会を開催しました。

当課から、今年度の普及指導計画や有機農業の推進等について説明後、地域計画や担い手対策について意見交換を行いました。

参加者からは、「経費高騰対策の補助があっても一時的で、増収しても所得は上がらない。野菜の単価の底上げが重要」、「災害復旧の補助率の検討をお願いしたい」等の活発な意見がありました。

当課は、参加者から出た意見を今後の普及活動に反映し、地域の農業の課題解決に取り組みます。

JA土佐くろしお管内の産地振興を関係機関とともに



活動計画を協議する参加者ら

5月30日、JA土佐くろしおで、JA、3市町、農業振興センターの29人が一堂に会し、JA土佐くろしお管内農業振興連絡協議会を開催しました。

会では、「担い手の確保・育成」、「労働力確保」、「農福連携」、「販売促進」、「主要9品目」の各課題プロジェクトチームの年間活動計画を協議しました。

また、JAからミョウガ生産拡大クラスターの進捗や加温燃料低減の取り組み、当課からデータ駆動型農業の推進等を情報提供しました。その他、資材高騰対策等についても話し合うことができ、参加者からは、「管内の課題を共有し協議する場として重要な会である」との声がありました。

当課は、関係機関と連携して各課題のプロジェクト活動をすすめていきます。

津野山野菜出荷最盛期に向けた市場との情報交換

～大阪市中心卸売市場調査～



市場調査をする生産者ら

6月5日～6日に、大阪市中心卸売市場で、JA津野山園芸部が市場担当者との消費地会議を開催し、生産者3人、JA職員1人、当課職員2人が参加しました。

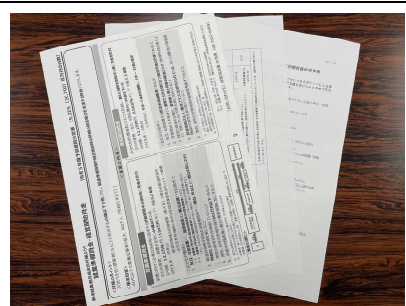
当課はJA津野山園芸部とともに、市場担当者に対して産地の現状を伝え、市場の現状や今後の情勢について情報交換を行いました。

生産者からは、「近年の青果物単価低迷に対する市場の取組が聞けてよかった」「市場との意思共有ができてよかった」等の声がありました。

今後、市場から得られた情報を、栽培管理指導等に活かして、生産者の所得向上に繋げていきます。

スムーズな就農に向けて

～研修生との面談の実施～



補助事業に関する資料

6月6日、JA土佐くろしおで、農業担い手育成センターで研修中の研修生1人に対し、関係機関職員4人が就農に向けた面談を行いました。

研修生は、中古ハウスを確保できているが、修繕見積額が高額で経営計画を立てづらいことから、削減可能な工事内容等について協議をしました。

当課は、活用できる補助事業や申請時期等について説明しました。

研修生からは、「自分では可否の判断しづらい設備等について関係者の意見が聞けて参考になった」との感想がありました。

今後も、必要に応じて、関係機関が連携して面談等を行い、研修生のスムーズな就農を支援していきます。

ユズ産地の拡大を目指して

～津野山地域ユズ産地協議会総会～



ユズ産地の活動を協議

6月9日、JA高知県高西営農経済センター「輝」において、委員10人が参加して津野山地域ユズ産地協議会総会が開催されました。同協議会は、「津野山地域ユズ産地構造改革計画」に沿って津野山地域のユズ産地の維持と発展を目標に様々な活動を行っています。

当課は事務局であるJAと協力して総会の開催に向けて資料等の検討を重ね、総会において、令和4年度の活動実績と令和5年度の活動計画について承認を得ました。

今後も、関係機関と連携して産地構造改革計画を着実に進め、津野山地域のユズ振興に取り組みます。

農業の担い手確保に向けて ～梶原高校でミョウガの出前授業を開催～



熱心に授業を聞く生徒ら

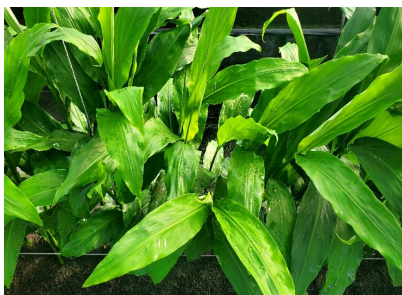
6月15日、県立梶原高等学校で、津野山地域営農連絡協議会がミョウガとIoPの取組みについての出前授業を開催し、農業コースの2年生4人が参加しました。

当課は講師として、本県及び津野山地域でのミョウガの栽培状況や、県が進めているデータ駆動型農業等のIoPの取組みについて、座学と動画を用いた説明を行いました。引き続き生産者ほ場の作業小屋で、環境測定装置や日射比例かん水装置などの最新機器を紹介しました。

生徒からは「農業の技術の進歩に驚いた」といった声が聞かれ、農業に対する理解や興味が深まった様子がうかがえました。

今後も、地域で栽培されている品目に関する学習や作業体験を計画、実施していきます。

肥料の低コスト化を目指して ～循環処方肥料調査～



調査圃場

6月16日、須崎市の促成ミョウガほ場3カ所で、JA土佐くろしおと当課職員が循環処方肥料の現地実証試験を行いました。

当課は、市販予定の3種類の循環処方肥料の適応性、経費節減効果を検証するため、2月から、2週間に1回の生育調査、1ヶ月に1回の養液分析を行い、肥料が問題なく処方されているかを確認しています。

これまで、ミョウガの生育に問題はなく、今後は、肥料費について節減効果を確認していきます。

引き続き生育調査と養液分析を行い、適応性の高い循環処方肥料を明らかにし、肥料の低コスト化を目指していきます。